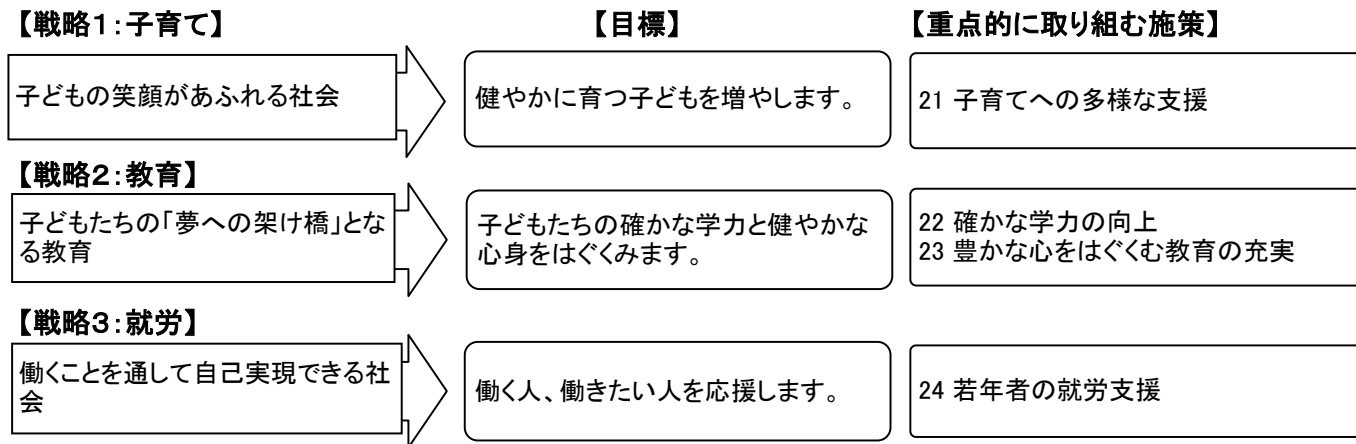


# Ⅳ 人が輝くくまもと ～子育て、教育、就労～

## 1 戦略の概要



## 2 指標の動向

### ○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。また、「目標値」欄の[ ]内の数字は、当初目標の達成後に設定した目標値。

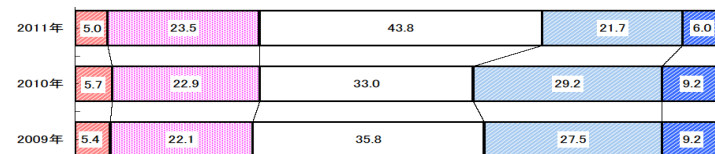
戦略	指標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の動向	目標値 (平成23年度末)	備考
戦略1	「肥後っ子の日」を知っている県民の割合	(※新しい指標のため現状値なし)	7.5% (H23)	↑	50%	
	くまもと子育て応援の店・企業登録数	1,120件 (H19)	2,416件 (H23.8)	↑	2,400件	《目標値達成》
戦略2	全国学力・学習状況調査において平均正答率が全国平均を上回った項目数	8項目中6項目 (H20)	8項目中7項目 (H22)	↑	全項目で全国平均を上回る	
	大学等進学率	41.7% (H19)	43.1% (H22)	↑	47%	
	不登校児童生徒の割合	1.09% (H19)	0.96% (H22)	↓	1%未満	《目標値達成》
戦略3	児童生徒の体力運動能力調査の県平均値(偏差値)	50.42 (H19)	50.72 (H22)	↑	平成20年度を上回る数値	《目標値達成》
	インターンシップに参加した県立高等学校の生徒のうち、インターンシップが進路について考えるきっかけとなったと回答した生徒の割合	89.1% (H19)	93.0% (H22)	↑	93%	《目標値達成》
	県内就職を希望する生徒の県内就職決定率	95.6% (H19)	94.6% (H22)	↓	97%	雇用情勢の悪化によりH21には92.6%まで下降したが、H22は2.0ポイント上昇した
	ジョブカフェ利用者における就職決定数	552人/年 (H19)	1,447人/年 (H22)	↑	600人/年 [1,100人/年]	《目標値達成》

### ○県民アンケート結果

《各戦略に対する満足度(2009-2011年)》

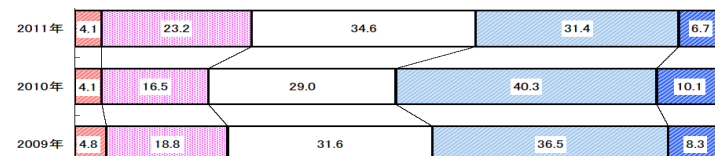
《もっと力を入れてほしい項目(2011年)》

#### 【戦略1】 子育て



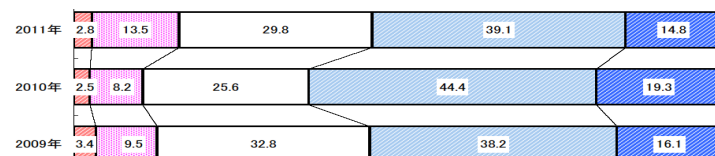
- 1位: 保育サービスの充実  
2位: 健全な青少年の育成  
3位: 地域住民による子育て家庭への支援

#### 【戦略2】 教育



- 1位: 豊かな心をはぐくむ教育の充実  
2位: 教職員の資質向上  
3位: 児童生徒の学力の向上

#### 【戦略3】 就労



- 1位: 若年者の就労支援  
2位: 女性の就労支援  
3位: 高齢者の就労支援

■満足 ■やや満足 □どちらでもない ■やや不満 ■不満

## 3 戦略の推進状況・今後の方向性

### 【戦略1】子どもの笑顔があふれる社会

#### 【21 子育てへの多様な支援】

- ・県地域子育て応援事業により、市町村等が取り組む子育て相談や交流事業等を支援し、子育て環境が向上した。
- ・くまもと子育て応援の店・企業について、引き続き登録数が増加し、目標値を達成。
- ・放課後児童クラブの整備や運営費助成により、放課後児童の安心安全な場所の確保が進んだ。
- ・ひとり親家庭等応援事業において、親への技能訓練(420名)や子どもへの学習指導を開始したほか、総合相談窓口を設置し、ひとり親家庭等の自立に向けた総合支援体制の整備が進んだ。
- ・第3子以降3歳未満児の保育料を無料化または軽減する43市町村への支援を行い、子育て家庭の経済的負担が軽減された。
- 少子化の流れを変えるため、県・市町村・県民・企業、地域社会等との連携を更に深めながら、県民ぐるみでの支援意識の醸成を進めることが必要。特に、子育て応援の店・企業の拡充や父親の育児支援を通じて「肥後っ子の日」に対する理解を深め、社会全体で子どもの育ちを支えるという意識づくりに継続して注力する。また、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて地域の実情に応じた子ども・子育て支援を推進するほか、保護や援助を必要とする子どもへの支援を継続していく。



子育てトーク

### 【戦略2】子どもたちの「夢への架け橋」となる教育

#### 【22 確かな学力の向上】

- ・「夢への懸け橋」進学支援事業等を推進した結果、県立高校で国公立大学の合格者数が増加。
- ・教育サポーターにより、小中学校では不登校生が減少、特別支援学校では危機管理体制が向上。
- ・生活保護世帯の貸付について、全面改正を行い、必要な世帯が利用しやすい制度とした。また、私立高等学校設置者に対する授業料等減免補助を実施し、補助対象を拡充するなどにより、経済的理由による教育格差の解消に向けた取組みを進めた。
- ・「熊本時習館構想」に基づき、私学間の交流促進や切磋琢磨する意識の醸成等が進んだ。
- 小学校低学年からの学習意欲や基礎学力向上が必要。そのため、モデル校で進めている基礎学力向上システムづくりに関する実践研究の成果を普及する。また、高校教員の教科指導力向上等のため、進学支援事業や地域進学重点校の取組みを一層深化させる。更に、教育の機会均等化のため、潜在化したニーズや学業継続が困難なケースへの対応等を図りつつ、引き続き生活保護世帯への貸付を実施する。加えて、時習館構想の推進により、生徒や教職員が切磋琢磨する環境を整え、学力の向上を図る。



熊本私学夢教育授業

#### 【23 豊かな心をはぐくむ教育の充実】

- ・研修や啓発活動等により、夜10時前までに就寝する子ども(3歳~小3)の割合は昨年度とほぼ同じとなる70%を超えた。
- ・スクールカウンセラーやいじめ・不登校アドバイザー等の配置、学校非公式サイトの実態調査等により、いじめや不登校の未然防止と解消に取り組み、改善の傾向が見られている。
- ・延べ138校の小中学校に図書館づくりプランナーを派遣し、子どもの読書環境の改善が進んだ。
- ・くまもと「親の学び」プログラムの活用や家庭教育支援員の活動等により、家庭教育力の向上が進んだ。
- 子どもたちの健やかな成長のため、引き続き基本的な生活習慣の定着や家庭教育支援の更なる充実に向けた「親の学び」プログラムの活用・普及、いじめ・不登校の未然防止と解消に向けた心の居場所としての魅力ある学校づくり等を推進する。

### 【戦略3】働くことを通して自己実現できる社会

#### 【24 若年者の就労支援】

- ・全地域振興局への「ジョブカフェ・ランチ」設置により、前年比約1.3倍の相談に対応。また、労働局・県・経済団体・学校現場等で設置した「新卒者就職支援本部」による求人開拓の強化や就職面接会の開催等の効果もあり、新卒者等の就職決定者数が増加した。
- ・全県立高校において、前年比103人増となる6,874人の生徒がインターンシップを体験。参加生徒のうち、インターンシップが進路を考えるきっかけとなったと回答した生徒の割合が目標値(93%)に達した。
- ・県立高校にキャリアサポーターを配置。サポーター配置校の県内就職決定率が全体平均を上回るという結果が表れている。なお、特別支援学校においては、ひのくに高等養護学校及び松橋養護学校高等部専門学科の就職決定率(就職希望者の就職率)はそれぞれ95.0%及び66.7%であるが、卒業生総数に対する就職率は54.3%及び11.1%と大幅に低下し、依然厳しい状況にある。
- 雇用情勢の悪化が続く中、ジョブカフェ利用者における就職決定数が年々増加し、県内就職を希望する生徒の県内就職決定率がそれまでの低下傾向から上向きに転じるなど明るい兆しも見られる。しかしながら、厳しい求人状況等を踏まえ、起業や就労に向けた若者の能力向上を図ることが必要。そのため、各教育機関をはじめ、国、経済団体等との連携を強化し、企業ニーズを反映させた職業訓練や地域での職業体験等キャリア教育の充実を図っていく。



高校生のインターンシップ